

修士論文（要旨）

2010年1月

国内日本語学習者の待遇表現の使用に関する一考察
—習得支援の試みをもとに—

指導 佐々木倫子 教授

国際学研究科
言語教育専攻
208J4013
中島勢津子

目次

第1章 研究の背景	1
1.1 研究の背景	1
1.2 研究の目的	2
1.3 先行研究	2
1.4 本研究における待遇表現の定義	4
第2章 調査1：アンケート調査	6
2.1 調査内容	6
2.2 アンケート調査の結果	7
2.2.1 依頼表現	8
2.2.2 勧誘表現	18
2.2.3 断り表現	22
第3章 調査2：インタビュー調査	25
3.1 調査概要	25
3.2 調査結果	26
3.2.1 調査結果概要	26
3.2.2 其々の調査結果	27
第4章 実践：待遇表現習得支援の試み	35
4.1 実践の目的	35
4.2 実践概要	35
4.3 学習経過	36
第5章 考察	59
5.1 アンケート調査	59
5.1.1 日本語母語話者との比較	59
5.1.2 誤用・非用	60
5.2 インタビュー調査	61
5.2.1 習得について	61
5.2.2 運用に対する意識について	62
5.3 習得支援の試みについて	63
5.3.1 個別の考察	63
5.3.2 習得を妨げた要因	65
5.4 まとめと課題	66
5.4.1 まとめ	66
5.4.2 課題	67
参考文献	
謝辞	

要旨

本研究は在日の日本語学習者の待遇表現の使用について考察するものである。

本研究の待遇表現の定義は菊池（1997 a）蒲谷他（1996）南（1987）などの先行研究をふまえ「相手や用件や場所に留意して使い分ける表現行為である」とした。

本研究では2つの調査と1つの実践を行った。

調査1ではアンケート調査を37人の初級後期から超級までのレベルの日本語学習者と20代から70代までの10人の日本語母語話者に実施した。依頼表現と勧誘表現と断り表現について文末を記入する談話完成型のアンケート調査を行った。

在日の日本語学習者が待遇表現を習得するためには滞日期間の長さとその期間の日本語母語話者とのコミュニケーションの量が関係していると考えられる。日本語学校で学習する滞日期間の短い日本語学習者の中には日常生活に必要な表現を回答できない例もみられ日本人とのコミュニケーションがあまりないことが考えられる。学習者の環境への働きかけの助言や支援が必要であると考えられる。

日本語学習者は日本語母語話者と比較して非常に丁寧に言わなければならない相手や場面や用件のときに使用する表現を回答している人は少ない。

調査2では中国人2人と韓国人2人の超級者（いわゆる上級を超えた超級レベルの日本語話者、以下「超級者」）に待遇表現についてのインタビュー調査を実施した。

4人の超級者とも「敬語は必要である」と述べていた。会社やアルバイトで仕事をする時や教師や初対面の人などに多く使用することである。超級者は基礎的知識を十分学習し、ドラマやテレビやインターネットなどのメディアを利用し、日本語母語話者と積極的にコミュニケーションを取っている。

普通語（口語、ため口）については学校での学習は十分でなく、周りの人や友人やテレビやドラマなどから習得している。学校では詳しい説明がなくニュアンスの差が分からないことがあったと述べている。今後、テキストや指導方法の工夫や改善が必要である。

実践の習得の試みは次の内容で行った。

待遇表現は内容、相手、場面などにより様々な言い方があり、日本語母語話者はそれらを教室の中だけで習得することは困難である。谷口（2003）は待遇表現の習得には日本語母語話者学習者の環境、日本語母語話者との接触が大きく関わっているのではないかと述べている。また、ネウストプニー（1995）は待遇表現の習得を促進するためには実際使用のアクティビティを行うことが有効であると述べている。

そこでビジターセッションや教室外の活動などを取り入れた学習カリキュラムを設定し、待遇表現の習得の支援を試みた。

4人の日本語学習者の協力でアクティビティを中心とする待遇表現の学習を14回実施したが、待遇表現の運用は不十分であった。ロールプレイでは使えても実際のアクティビティではあまり使用できず、ロールプレイには限界があることが分かった。また、第2言語を習得するためには積極性が必要である。積極性に欠ける人には、前向きな積極的な態度

を育てる教室活動や運用の機会を提供すべきである。

アクティビティを中心とした学習に対して学習者の評価が高いことを考えると、機会を捉えて今回の方法を見直しながらアクティビティを中心とした学習の方法を改善し、学習者の待遇表現の学習を支援していきたい。

参考文献

- 池田佳子 (2004) 「インターアクション言語運用能力の向上を目指して—インタビューというタスクの再考—」『日本語教育研究1』日本語教育研究センター
- 井出祥子 (2006) 『わきまへの語用論』大修館書店
- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない 最新用例と基礎知識』講談社現代新書
- カノックワン・ラオハブナラキット (1995) 「日本語における『断り』—日本語教科書と実際の会話の比較」『日本語教育』第87号日本語教育学会
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1996) 「待遇表現の指導」『日本語学』第15巻第8号 明治書院
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』大修館書店
- 蒲谷宏 (2003) 「「待遇コミュニケーション教育」の構想」『講座日本語教育』第39分冊早稲田大学日本語研究教育センター
- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (2002) 「待遇表現としての「誘い」」『早稲田大学日本語教育研究』1 早稲田大学大学院日本語教育研究科
- 菊池康人 (1997a) 『敬語』講談社学術文庫
- 菊池康人 (1997b) 「変わりゆく『させていただく』」『月間言語』26(6) 大修館書店
- グループ・ジャマシイ編著 (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法7』くろしお出版
- 鮫島重喜 (1998) 「コミュニケーションタスクにおける日本語学習者の定型表現・文末表現の習得過程」『日本語教育』98号
- 谷口和加子 (2003) 「中級日本語学習者における待遇表現の習得—環境とのかかわりによる表現の習得—」『待遇コミュニケーション研究』創刊号
- 田中奈央 (2004) 「就学生における『待遇コミュニケーション』の実態と問題点を探る—依頼・許可求め場面のロールプレイによる考察—」『早稲田大学日本語教育研究』5 早稲田大学大学院日本語教育研究科
- ネウストプニー,J.V (1995) 『新しい日本語教育のために』大修館書店
- ネウストプニー,J.V・宮崎里司 (2002) 『言語研究の方法』くろしお出版
- 林さと子 (2005) 「学習環境からみた日本語教育」『月間言語』34(6) 大修館書店
- 堀口純子 (1983) 「授受表現にかかわる誤りの分析」『日本語教育』52号
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- 南不二男 (1987) 『敬語』岩波新書
- 望月通子 (2003) 『日本語教育学の新視座』関西大学出版部
- 森勇樹 (2002) 「日本語教育における待遇表現指導のあり方について—効果的な指導法を目指して—」『語文と教育』鳴門教育大学国語教育学会
- 山内博之 (2000) 『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』アルク
- 山下秀夫 (2000) 「日本語教育における初級と待遇表現」『日本語教育』69号